

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまより平成25年 4 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブの方にご異動がございました。本日初めてこの会見に参加されております記者の方をご紹介します。

【記者】 こちらへ来る前は社会部のほうで5年ほどデスクしておりまして、現場は久々になります。敦賀、美浜に関しては10年ほど前、原発担当記者をしておりまして少し取材したぐらいで、今後は公私ともに敦賀をじっくりと味わいたいなと思っています。よろしくお願いします。

【記者】 以前は本社で経済を中心に、警察、司法などを5年ほどやりまして、行政、原発関係というのは初めてということになります。まだまだ不勉強なところがありますけれども一生懸命頑張りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、会見のほうを進めさせていただきますと思います。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、2項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表からお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へ進行したいと思っております。なお、終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【市長】 いよいよ新年度スタートということで、きょうは新しい市の職員の辞令交付、また異動もございました。少し課も減り、また職員数も二十数名減ったわけでございますけれども、今このような時代でございますのでしっかりとそのような意識を、人は少なくともとにかく一生懸命やって、敦賀市の発展のため、また敦賀市民の福祉向上のために頑張ってくれということで訓示もしたところでございます。心新たにしっかりと新年度頑張りたいと存じます。

また、私にとりましても5期目のちょうど折り返しを迎えるわけでございますので、一つの大きな節目だということ認識をしながら、残された任期をしっかりと頑張っていきたいという決意も新たにしたところでございます。

また、引き続き記者クラブの皆さん方には、よろしくお願いいたします。

ところで、敦賀気比高校、大変快進撃を続けております。ただ、くじ運が悪かったというか、もう既に4回戦ってきておるところでございます。あすはいよいよ準決勝を迎えますので、ぜひ勝って、この際、決勝戦に行って優勝してほしいというふうに願っておるところではございますけれども、これも勝負は時の運でございます。どうなるのかわかりませんが、恐らくほとんどの敦賀市民の皆さん方も応援をしておりますし、また福井県全体にとっても大変明るい話題でございますので応援をさせていただいておるといふふうに思っているところでございます。そのような夢をかなえることを、もうあす、あさってのうちにあるかもしれませんので十分期待をしたい、このように思っているところであります。

それでは、発表項目に従いまして、説明させていただきます。

まず、1項目めでありますけれども、平成25年度の職員採用候補者試験でございますが、薬剤師、助産師、看護師の実施でございます。

それぞれの自治体におきましても、医療関係、看護師不足等々ございます。私ども早く試験を行い、いい人材を確保したいということで、そこに書いてございますとおり、薬剤師3名、助産師若干名、看護師30名ですが、4月8日から受付をしたい、このように思っております。1次、2次、また最終発表等々はそこに記載のとおりでございます。

続きまして、東京ディズニーリゾートのスペシャルパレード、敦賀まつりの参加であります。

ことしもちょうど9月1日から4日までの4日間の予定で敦賀まつりを開催するわけでございますけれども、このディズニーリゾートのスペシャルパレードがまつりに参加してくれることになりました。恐らくディズニーキャラクターといいますと知らない人がいないというぐらい人気もございまして、いろんな形で敦賀まつりにまた多くの集客が望めるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

東京ディズニーリゾートが全国の都市を回る東京ディズニーリゾート30周年“ザ・ハピネス・ツアー”の一環として行われるものでございます。日程等々は下記のとおりでありますけれども、大変ありがたいことに1円も要らないということで、警備に少しお金はかかりますけれども、大変こんなありがたいことはないというふうに思っているところでございます。

細かい内容等についてはここに、お手元に記載してございます。写真入りのものをお配りしてあると思いますのでごらんになっていただきたい、このように思います。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました2つの項目につきましてご質問をお受けしたいと思っております。

最初に幹事社さん、ございましたらお願いいたします。

【記者】 新職員の採用のほうからお伺いします。

看護師30名というのはかなり多いかなと思うんですけども、これは例年こういうものなのか。それと、試験を早目に実施するというのは、例年と比べてどれぐらい早いのかをお願いします。

【総務部長】 今、看護師さんとか助産師さんあるいは薬剤師さん、そういう方々の採用というか募集をさせていただいても、どこの病院もなかなかおいでいただけないような状況でございますので、ことしからその職種につきましては例年より2カ月ぐらい早めて実施をさせていただくということにさせていただきました。また、看護師さんにつきましては随時の採用もやらせていただいておりますけれども、ほかの自治体病院あるいは県立病院等々を鑑みますと、全てかなり早い段階で試験をされていらっしゃるというふうなことから、ことしからこういう時期にやらせていただくという形にさせていただいたところです。

30名というのはそんなに多くございませんで、大体例年それぐらいの皆さんを採用させていただくべく取り組んでおります。

【記者】 敦賀まつりのパレードのことなんですけれども、これって市が何かお願いして誘致したのか、それともディズニーリゾートのほうから申し出があったのか、どういう経緯で参加することになったんでしょうか。

【産業経済部長】 これは、先ほど市長が申し上げましたとおり、ディズニーリゾートの30周年を記念して全国へ巡回しているということで、昨年こちらのほうへ視察に見えました。それで決定ということで通知をいただいております。ですから、こちらからお願いしたというよりもディズニーリゾートのほうから出演を依頼していただいたというほうが正しいと思っております。

【記者】 敦賀まつりで市長がパレードをしているのとか全部ですか。

【市長】 恐らく全国のいろんなお祭りを見て回って、ここならいいんだろうということと判断をいただいたんじゃないかなと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいというふうに思います。

発表項目につきましてご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

それでは、ないようですので、次第の3番目、フリーの質疑応答へ進みます。

これも幹事社さん、ございましたらよろしくようお願いいたします。

【記者】 ことしも電力供給計画の中で、原電さん、敦賀3・4号機については、当然ですけれども時期が見通せないということになったんですが、3・4号機の着工について改めて市長の思いと、あと40年超えている1号機については、もう毎回のようにお伺いしていますけれども、再稼働についてどう考えるかというのを改めてもう一度お願いします。

【市長】 国において基本的には原子力行政がどうなるか、また日本のエネルギーのこれからのあり方をどうするかということがまだ最終的に決定していない状況でありますので、それを見守っていくしかないというふうに思っています。私ども地元とすれば、そういうものが早く示され、特にエネルギー確保の中でも原子力というものをある程度位置づけをして、そしてその中でより安心、安全な新しい炉をつくり稼働することになれば、やはり3・4号というのが一番そういう目標には近い位置にありますので、そういう

ものを決めていただいて、新しい、より安全な3・4号機を早くつくってほしいなというふうに思っています。ただ、現時点ではまだそういうものは決まっておきませんので、いたし方ないというふうに思っています。

1号機等については、やはり今度、安全基準もできますので、それに適合すれば1号機もまだ、3・4号機ができるぐらいまでは動かしてもいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、ただ、まだ今、現段階では何とも言えないなというふうに思います。

【記者】 市長はこの前、新年度当初予算のときに会見で、原子力行政など現実に合わせた現実対応型の予算だというふうに新年度の予算に名前をつけていたと思うんですけども、きょうから2013年度が始まるということで、その予算をもとにどういうふうな1年に、まだ原子力とか決まってないですけども7月に基準もできることすし、この1年はどういう年になってほしいなみたいな、難しいかもしれませんが何か願いとかがあったらお願いします。

【市長】 予算はもう編成して議会にもお認めをいただいて、これから執行していくわけでありまして、それに従って粛々と執行しながら市民の安心、安全にも資する予算編成だというふうに思っていますので、そういうものやっしていきたいなというふうに思います。

希望とすれば、先ほど言いましたように、早く原子力の位置づけを明確にさせていただいて、やはり当面必要であると。そのためには再稼働を含めていろんな諸問題の解決をし、できればそういうものが前進をする年度になってほしいなというふうに期待をいたしております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ご質問ございましたらお願いします。

【記者】 済みません。原子力の話題ではないんですが、先日、紙面上でも幾つかの報道機関が報道していると思うんですけども、中池見湿地で何か重要な植物が勝手に伐採されているというふうな報道がありました。それを受けて市長としてはどのように受け取られているのか、また市側としてどのように対応されていこうと思っていられるのか、ちょっと伺いできますでしょうか。

【市長】 一応ラムサールで登録された地域でありますので、勝手にそういうことをされるのは遺憾に思いますし、中池見の重要性をまだ認知していない人もいるかもしれませんので、しっかりとそういうことをPRをして、みんなで大事にしていこうという機運を醸成していきたいなというふうに思います。

【記者】 市としてはどのように対応される予定でしょうか。

【塚本副市長】 これは以前にも一度あったと思うんです。これ2回目なので、原因が同じかどうかわかりませんよ。もう少し詳しいことを調査してからまた発表させていただきます。

【記者】 まず夢の話からで、あした気比高の準決勝がありますけれども、市として、あしたの準決勝に向けて、一緒に見るとか何かそういうような企画みたいなのは考えたりはしているんですか。帰ってきてからとかじゃなくて、あしたの準決勝で市として何か行うこととかはあるんですか。特になんかですか。

【市長】 特にありません。粛々と応援をしたいということで、また陰ながら私自身は応援しようかなというふうに思っています。きょうも福井新聞さん書いていただきましたけれども、公務で3日間行けなかったと、3試合。そしてうまく勝っていったと。これはもう私が顔を出したらだめやなというジンスを自分自身で作りまして、それを信じてながら、きのうもちょうど10時ごろこちらを出たんですけども、11時から試合ですから、試合が始まったと同時に車の中のテレビで見ながら走って行って、そうすると順調に加点をし、甲子園に着いたときに8対0、これが7回やったんですね。それで、これはもう大丈夫だ、行こうかなと思ったんですけども、ちょっと辛抱して、それで時間も迫ってきたんで甲子園の通路のほうでちらちらと顔を出していたら、ピッチャーもかわったせいもありますけれども、3点もとられてしましまして。6点差なんですけれども、人間って不思議なもので、ひやっと実はしてしましまして。「弱ったな。やっぱりあそこへ顔出さなきゃなかつたな」という実は反省も持っていますので、できれば車の中において、終わったらまた皆さんにねぎらいなりはかけに行こうかなと思っておるんですけども。

そんなようなことで、やっぱり勝負事というのは非常にジンクスがありまして、今、気比高校、きのうの試合を見ていましてもついていると思います。かなり強い当たりが、ピッチャーの靴に当たりましたね。あれがちょうどサードの真横に飛んで行って楽々アウトになったのと、それとランナーがたしかいて、セカンドライナーがありましたね。かなり強烈な当たりで、たとえ50センチでもずれていたらヒットになっていたものが、うまくジャンプしてとれたということで、私はやっぱり勝負事には、運というのは絶対あるというふうに思いますので、そういう意味ですも肅々と陰に隠れていけば必ず決勝戦は見えているなというふうに自分自身で思っていますので、余り目立たぬように応援をしていきたいというふうに思っております。

【記者】 市長が来ても別に関係なく、選手は力はあるような気はするんですけども、それは市長のお考えなので僕はそこまであれですけども、市民の代表として応援してほしいなと思います。

ちょっと現実の話をさせてもらうんですけども、先ほど1号機の、言葉をちょっと確認だけしておきたいんですけども、1号機が安全基準に適合できるなら3・4号機ができるまではとかというふうにおっしゃったように聞こえたんですけども、基本的に原電は2016年で運転停止ということを決めていますので、その間でできるかという話がまず前提にあると思うんですけども、当然その前提ということによろしいんですね。

【市長】 基本的にはそれが前提、これはやはり福島のような事故の起きる前の話でしたから、恐らくああいうふうな福島の事故がなければもう少し順調に前に進んでいたと思います。それが少し、今そういう状況でとまっていますので、ある程度後ろへずらすことも私は可能かというふうに思います。

それと当時、実は3・4号機が稼働して1号機を終息さすという思いの中でかなり前から計画を練ってきておりましたので、そういうことの原点に戻れば、でき得れば3・4号機が動くし1号機が自然と廃炉に向かっていくというほうが、いろんな面で経済的なことを考えますといいというふうに思います。ただ、16年度ということに今は決まっていますので、そうなりますとまたいろんな見直し作業もありますし、例えば基準の中でそこまでは無理だということになれば、これは仕方ありませんが、安全基準をクリアしてまだそこまで、つなぎまでいけるということになればつないでもらいたいなという、これは希望的観測の話の枠は出ません。

【記者】 ちょっと微妙な発言でもあると思うんですけども、基本的には16年のストップというのは前提としてあって、基準が適合すればということによっておられるんですか。仮定で言っているんですか。

【市長】 先ほど言いましたように、16年と決めたのは、3・4号機なりが順調に進んでいくという前段の中で決まった話ですし、もちろん震災前の話でありますので、それが震災というああいう大きなアクシデントがあったもんですから、それはそれなりにまた次の新しい段階になったときはお互いに会社側ともすり合わせもしなきゃならないでしょうし、国とのいろんな関係もありましょうし、いろんな議論をする、検討をする余地はあるというふうに思いますけれども、先ほど言いましたように、基本的には3・4号機ができたと同時に1号を廃炉にしていこうということはかなり前から思っていたことなので、たまたま16年ということがその当時は当てはまっていたけれども、それが完全に狂っている現状ですので、そういういろんなものをクリアをしていけばそうなったほうが良いなという思いです。

【記者】 先週、関西広域連合が北陸新幹線のことについて一致して米原ルートを押すということを決めたわけですけども、敦賀市長の立場として、つまり今のところ敦賀が最終ですけども、そこから先にさらに京都、大阪、東京とアクセスがよいとされている米原、もしくは京都駅に寄らない小浜ルート、もしくは最速になるのかな、湖西ルートとあるわけですけども、改めて関西広域連合の提示についてどのように見て、あるいは市長としてはどれが一番いいというふうに考えていますか。

【市長】 もともと私、持論なんですけれども、北陸新幹線というよりも日本海新幹線というものを将来走らせなくちゃならないと。そのための前段として北陸新幹線が長野から富山なりに入ってきて、敦賀に今現に認可をされましたけれども、将来的には小浜を抜け

て鳥取までつなぐ日本海新幹線というものを国がもっと早く打ち出して、そのひげ線として米原に、まず時間的、予算的な問題もありましようからつないでいく。しかし、小浜を抜けていく日本海新幹線というのがありますよというスタンスを国が早くとるべきであって、私どもも地方自治体にあっちだこっちだと決めさすのは変な話だと思います。

ただ、東海、東南海の地震などもそう遠くないときにあるんじゃないかと言われている昨今の中で、代替ルートとして確保するためには米原ルートというのは確かに予算的にも一番早くつながりますので、今は東海道新幹線の代替ルートになることを考えれば、まず米原につないでおく。しかし、日本海新幹線というものを走らず、そういう構想自体は国が早く国土軸形成という観点から打ち出していくことによって、いろんな地域の皆さん方も納得をしてくれるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、米原へつないでしまっ「はい、それまで。終わりですよ」なんていうことを言えば、これはまた大変な問題になるというふうに私は思っています。そういう意味で関西広域連合とすれば、あの人たちは恐らく日本海側に新幹線を走らすなんていう構想はありませんので、自分たちの地域のことを中心に考えて米原というふうにおっしゃっておりますけれども、やはり前段として、そういうふうな日本海側の思いを入れて、そして当面、いち早く、まず米原までつないでおくべきだというふうにお話をすれば私どももまだある程度理解はできますけれども、そのあたり、やはり住んでいない皆さん方というのは私どもの思いは恐らく理解していないんじゃないかなというふうに思います。

【記者】 といいますと、今のを整理すると、市長としてはまずは米原を第1段階として、2段階で考えるということですか。それがひげ線かどうかは別にして。

【市長】 だからその前段として、将来的には日本海側に新幹線を走らすと。その前段としてまず米原までつないでおくんだということで、やはり国自体がそういう思いをまず打ち出していただかないと地方同士の変な争いになってしまう可能性もありますし、現に小浜の皆さん方にすれば、当然米原である、福井県全体としても米原をとというのは何事だという、そういう話に今現になっておりますので、そういうことは避けるべきだと。そのためには国がもっと日本海国土軸というものを真剣に考える必要があるというふうに思います。これはやはりもっと国政の中でしっかりと議論をしてほしいというふうに願っています。

【記者】 あと1点、地域防災計画のことについてお聞きします。

敦賀市は再来月の6月に完成を目指しているわけですが、肝心かなめの避難先については空白のままになっておりまして、県のほうも5キロを優先しておりまして、いわゆる国が求めている30キロ圏、これについては一切手つかずということをして県のほうが行っているわけですが、原発立地の敦賀市が今後計画策定するに当たって、県というのが支障になっているわけですが、県に対して具体的にどのようなものを求めたいのか、あるいは具体的にアクションを起こす気はあるのかどうかについてお聞きします。

【木村副市長】 地域防災計画につきましては3月に一応素案を示させていただきまして、今現在、作業部会のほうで練っていくところでございます。一応6月までに、現段階でわかっている範囲の中ですと。今後、規制委員会が基準等をまた示してくると思いますけれども、その分についてはその次の段階にまた入れていくという形で今つくろうとしております。この中で、今県のことも出ましたが、5キロ圏内については県と大体同様な形になるかと思っておりますし、それ以外については規制委員会が出しているマニュアルの中からつくっていききたいというふうに思っています。

また、なおかつ避難先の関係なんですが、これは県知事のほうも県議会の中で、他の自治体と避難先についての協議もしていきたいということを言っておりますので、それが出てくれば市と市、また市と町との協議に入りたいというふうに考えています。

【記者】 となりますと、広域避難については空白のまま6月に一旦まとめて、その後、県が出てきたら順次修正を加えていくという理解でよろしいですか。

【木村副市長】 避難先につきましては今、現段階では県が暫定的に30キロ圏外へ一応つくっております。これが県外のことが出てくれば、またそれを更新をしていくという形になります。

【記者】 中池見と選抜、一つずつ教えてください。

先ほど中池見の無断伐採のことについて、あそこは市有地ですよ。市有地で自然公園法に係る国定公園の二種にかかるところだと思んですが、市有財産を勝手に伐採されて、自然公園法にも違反するような行為を市の土地でされているにもかかわらず、市のほうは例えば告訴をするとか、先ほど塚本副市長は原因を調査しておっしゃいましたけれども、明らかに市有財産がああいうふうになっているのに次の手を打つかどうかというのは。

もう一度その辺について見解を聞かせていただけませんか。

【塚本副市長】 今、詳細のところはちょっと把握していないんですけれども、その辺りはきちっとやって毅然たる態度で臨みますので、それはほかから、一方では世界のラムサールになっているところを、市有地との関係はあるにせよ、きちっと法的なものが明確になるならば毅然たる態度をとります。

【記者】 あと選抜の件ですが、昭和53年ですか、福井商業が優勝戦にいて残念ながら準優勝で終わったんですが、あのときは福井駅前から祝賀会場まで大パレードをしました。今回、そのような事態に幸いにしてなった場合に、できるかどうかは別にして、その辺の市長のお考え、選手たちを出迎える構想、どういうお考えがあるのか、そのために何をしたいかなきゃいけないのか聞かせてください。

【市長】 気持ちとすれば、仮に優勝なり準優勝すれば福井商業のときのように、恐らく市民の皆さん方も望んでおるといふふうに思いますからそういうパレードはしたいといふふうに思うんですけれども、近年、高野連のほうでかなり状況が変わりまして、そういうことはだめだと。要するに、高校野球という教育の一つの場の中でヒーロー扱いはだめとか。例えば昔ですと、気比高なり敦賀高校が行った場合、市役所に選手が来て、職員が出てみんなで激励をしたこともあったんですけれども、そういうことももうだめだといふ高野連の規定が実はございまして、やりたくてもできない状況になっております。できるのは、帰ってきたときに気比高校で迎えて、そこでみんなを祝福してあげるといふこととか、あとは、例えばキャプテンとか数人が後日役所へ来て、そこで報告会をするということでもありますので、そうなった場合はマスコミの皆さん方が総出でぜひひとつ取材をしていただいて、全国放送につながっているとか全国放送で流してほしい。それだけを願っております。気持ちは、何としてでもそういうことをしてあげたいという気持ちは持っておりますけれども、かなわないということでありました。そういう夢で残念なという思いになるように、あすかあさってにはなると本当にいいと思います。

【記者】 選抜の件で隠れて応援するということですが、あしたの準決勝はどこで応援されますか。

【市長】 予定は車の中でテレビを見て。あのときは本当に物すごく調子がよかったんですよ。もうぼんぼん点数が入っていましたから。あしたも車のテレビで観戦をしながら、甲子園の近くには行っておりますけれども、それが一番点数のとれる見方かなといふふうに自分自身は思っております。

【記者】 では、スタンドには行かずに通路にも行かず、甲子園の外で待機という。

【市長】 通路ぐらいは行きたいなと思っておりますけれども。

【記者】 甲子園の通路で応援ですか。

【市長】 通路に余り長いことは。

【記者】 アルプス席は。

【市長】 アルプス席は、勝ってから行くようにします。きのうもそのようにしました。

【記者】 非常に地味ではありますが、今現在廃炉中のふげんが運転を終了してからことしでもう10年になるわけですが、廃炉技術の開発とかいろいろ取り組んでいくこともありますが、何か一言あればお願いします。

【市長】 新型転換炉ということで、私どももあれが急に廃炉になってしまった経緯というのは今も少し解せないところもありまして、もともと、ある意味何でも食べる一つの発電所で、一つの役割もあったやには思いましたけれども廃炉になってしまったということで、もうそれから早くも10年かという思いを持っております。

それはもう仕方ありませんので、廃炉技術の確立ということで関係者も取り組んでおりますし、廃炉問題というのは日本の原子力発電所のそれぞれのところで必ずやってきますので、十分そのふげんの廃炉を研究しながら技術の確立を早くしてほしいなということを

願っております。

【記者】 檜曲の民間の産廃処分場の運転延長計画10年というのが先日環境省から認められたと思うんですけども、大がかりな工事は終わったものの、ずっと浄化とかを続けて木の芽川に流すのは続けていくということなんですけれども、まだそのごみを出した自治体とかからも費用が余り回収できていないというので、この前、市長も環境省に要望に行かれたと思うんですけども、10年始まりの年になるんですが、どういうことをまず解決したいというふうに考えていらっしゃいますか。

【市長】 まず第一は浄化促進作用、時間はかかりますけれども、必ず将来的には何にもしなくても無害化していくというふうに思いますので、でき得れば早くそれが達成して、10年と言わずに数年で完了したのでそういう作業が要らなくなったということになってほしいなというふうに願っております。

それと、やはり搬入した自治体に対して、ついせんだって環境省で、特に石原大臣にもお会いして事情を説明する中で、これはしっかり環境省としても取り組みますというお言葉をいただきまして、担当の課長なども来ておりました。そういう意味では環境省が指導をしっかりとさせていただいて、やはり私どもの地域は一つの悪い例になったわけでありまして、こういうことを繰り返してはならんわけでありまして。これからまた、産業廃棄物というのは恐らく産業活動が続く限り出てくるものでありますので、しっかり適正に処理されるということが重要でありますし、やはりこういう問題で他の自治体が苦勞をすることを避けなければなりませんので、私どももその一つの前例になっております。

早くいい形で解決をし、産業廃棄物が知らぬ間にいろんなところへ飛び回る事態を避けるためにも早く解決をしていきたいと思っております。そのための環境省の強力な指導を願っております。

【記者】 具体的に環境省が調整して、その自治体との協議とかという場を設けられる予定はないんですかね。

【市長】 現時点では、まず県単位で話をしているというふうに思いますけれども、副市長がよく知っていますから副市長のほうから。

【木村副市長】 それでは、私のほうから答えさせていただきますが、市長が環境省のほうへ行きまして要請をしてくれました。私も県のほうにも協力してもらおうように要請をしてくれました。それを受けて環境省のほうで今それぞれの県を通じて指導をいただいています。環境省が指導をさせていただいて、それで向こうで話せる場所をつくっていただければうちのほうも行きますし、また個別に行くという話が環境省と向こうの県でできればうちのほうに行くという形になっておりますので、今、その環境省からどういう形になってくるかというのを待っているところでございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして4月の市長定例記者会見を終了させていただきます。

【市長】 ありがとうございます。

午後2時6分 終了